

# 高所作業車運転技能講習学科練習問題

※下記問題は練習問題であり、学科試験と同一ではありません。

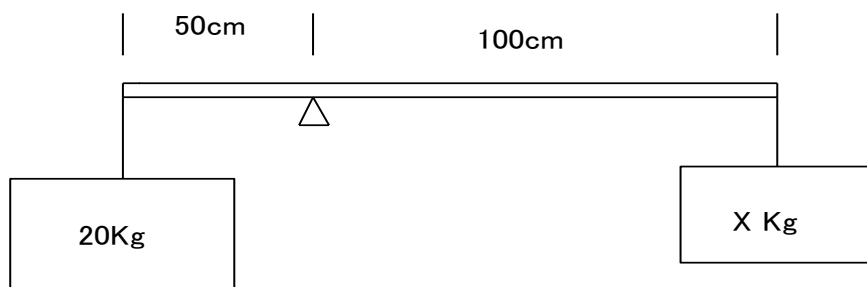
また、当センターの学科試験においても、下記のようにふりがなを振っております。

- 1、<sup>せんかいちゆうしん</sup> 旋回中心から<sup>さぎょうしょうないめんさいせんたんぶ</sup> 作業床内面最先端部までの<sup>すいへいきより</sup> 水平距離を<sup>さぎょうはんけい</sup> 作業半径という。
- 2、<sup>さぎょうしょう</sup> 作業床 10 m以上の<sup>こうしよさぎょうしゃ</sup> 高所作業車であっても、<sup>さぎょうしょう</sup> 作業床を 10 mまで<sup>あげなければ</sup> 上げなければ、<sup>とくべつきょういく</sup> 特別教育を<sup>しゅうりょう</sup> 終了して<sup>さぎょう</sup> 作業を<sup>おこな</sup> 行うことができる。
- 3、<sup>きふく</sup> ブームの<sup>かんけい</sup> 起伏に関係なく常に<sup>つねにさぎょうしょう</sup> 作業床を<sup>へいこう</sup> 平衡に<sup>ほじ</sup> 保持する<sup>そうち</sup> 装置を<sup>さぎょうしょうへいこうそうち</sup> 作業床平衡装置をいう。
- 4、<sup>がたこうしよさぎょうしゃ</sup> ブーム型高所作業車には、<sup>しんしゆくがた</sup> 伸縮型・<sup>くっせつがた</sup> 屈折型・<sup>こんごうがた</sup> 混合型・<sup>3</sup> 3タイプがあり、これらの<sup>さぎょうそうち</sup> 作業装置には、<sup>ゆあつしき</sup> 油圧式のものが<sup>おおくしやう</sup> 多く使用されている。
- 5、<sup>そうち</sup> アウトリガインターロック装置は、<sup>うんでんしゃ</sup> 運転者が<sup>じゃっきせつと</sup> ジャッキセットを<sup>わすれてぶ</sup> 忘れてブームを<sup>さどう</sup> 作動すること  
<sup>ぼうし</sup> を防止する役目もある。
- 6、<sup>すいちよくしやうこうかた</sup> 垂直昇降型のものは、<sup>X</sup> Xタイプと<sup>しざー</sup> シザースタイプがあり、<sup>なご</sup> マストタイプ等はない。
- 7、<sup>すべて</sup> アウトリガーは、<sup>たいや</sup> 全てのタイヤが<sup>うく</sup> 浮くようにセットする。
- 8、<sup>もくひやう</sup> 目標へ向かう場合の<sup>むかうばあい</sup> 伸縮ブーム型の<sup>しんしゆくぶ</sup> 安全操作の<sup>あんぜんそうさ</sup> 手順は①<sup>てじゆん</sup> 起伏、②<sup>きふく</sup> 伸縮（<sup>しんしゆく</sup> 伸）③<sup>のび</sup> 旋回、④<sup>せんかい</sup> 調整)、である。
- 9、<sup>くっせつぶ</sup> 屈折ブーム型高所作業車の<sup>がたこうしよさぎょうしゃ</sup> 基本操作手順として、はじめに<sup>きほんそうさてじゆん</sup> 屈折レバーを<sup>くっせつ</sup> 操作し<sup>そうさ</sup> 第1ブームを<sup>だい</sup> 上昇させることである。
- 10、<sup>さぎょうしょう</sup> 作業床に<sup>とうじやうご</sup> 搭乗後は、<sup>うごいたあと</sup> ブームが動いた後に<sup>あんぜんたい</sup> 安全帯を<sup>か</sup> フックに掛けること。
- 11、<sup>ろうどうあんぜんせいせいほう</sup> 労働安全衛生法は、<sup>しよくば</sup> 職場における<sup>ろうどうしゃ</sup> 労働者の<sup>あんぜん</sup> 安全と<sup>けんこう</sup> 健康を<sup>かくほ</sup> 確保することを<sup>もくてき</sup> 目的としているが、<sup>かいてき</sup> 快適な<sup>しよくばかんきやう</sup> 職場環境の<sup>けいせい</sup> 形成の<sup>そくしん</sup> 促進については<sup>もくてき</sup> 目的としていない。
- 12、<sup>じぎやうしゃ</sup> 事業者は、<sup>とくべつきょういく</sup> 特別教育を行ったときは、<sup>おこなった</sup> 受講者・<sup>じゆこうしゃ</sup> 科目等の<sup>かもくとう</sup> 記録を<sup>きろく</sup> 作成して、これを<sup>さくせい</sup> 3年間  
<sup>ほぞん</sup> 保存しておかなければならない。

13、事業者は、高所作業車については1年以内ごとに1回、定期的に自主検査を行わなければならない。

14、ナットをスパナで締め付けるときにナットにかかる回転力を「力のモーメント」といい、締める力はスパナの柄の握る位置がナットから遠い方がより小さな力で締めることができる。

15、下図のように天びん棒で、左には20kg重さの荷をつつた場合、右には10kgの荷をつつと、丁度釣り合う。



16、コンクリート1m<sup>3</sup>あたりの質量は3トンである。

17、アウトリガーにかかる接地圧はブームの方向、起伏や伸縮に応じて大きく変化することはない。

18、高所作業車の原動機には主にディーゼルエンジンが用いられている。

19、作動油タンクは、作動油をためておくものであるが、冷却・浄化された作動油が供給されるように、各種付属品が取り付けられている。

20、機体を水平にすることができない場合、必ずブームを坂上に向けて作業すること。

- 1、○    2、×    3、○    4、○    5、○    6、×    7、○    8、×  
9、×    10、×    11、×    12、○    13、○    14、○    15、○    16、×  
17、×    18、○    19、○    20、○